

活動履歴と今後の予定

1/12 立教大学川村ゼミ来訪・意見交換会

1/15 錦町東住宅役員会

1/27 第5回理事会

2/5 あすと第3みのり会役員・フロア長会

2/13 北浜住宅役員会

2/14 災害公営住宅相談対応

2/19 錦町東住宅役員会

3/7 近畿大学寺川ゼミ来訪・意見交換会

3/14 塩釜市被災者見守り・相談支援調整会議

3/19 錦町東住宅役員会

3/24 第6回理事会

3/25 登米 菅勘資料館アートWS「箔でえがくキラキラの世界」協力

Wi-Fi サロン

2ヶ所で開催中！

<つながりリッキー@あすと第二>

開催日：毎週金曜13:30～15:00

場所：あすと長町第二市営住宅集会所（太白区長町6-5-13）

参加費：大人100円、高校生以下無料

主催：就労移行支援Rickyクルーズ、つなセン 協力：あすと第二市営住宅住民の会

<田子西スマホサロン>

開催日時：毎月第4土曜13:30～15:00

場所：田子西住宅集会所（宮城野区田子西1-11）

参加費：無料

主催：田子西町内会

協力：つなセン、東北学院大学災害ボランティアステーション、
東北大学課外・ボランティア活動支援センターお気軽に
ご参加
ください！

会員数

正会員 賛助会員

26

(±0)

28

(±0)



facebook

いいね!数

595

(±2)

2023年3月1日 現在(前号比)

入会のご案内／寄付のお願い

つなセンでは、あすと長町から始まり広がった復興コミュニティデザインの経験を、東日本大震災の被災地や熊本など他地域へ伝えるべく、活動しています。民間非営利の立場で、枠にとらわれずに機動的に活動が続けていくためには、皆様からの会費や寄付が大きな支えとなります。会員として、又は寄付を通じて、ぜひ応援をお願いいたします。賛助会費及び寄付金は寄付金控除の対象となります。会員登録みやご寄付は、ネットからもお手続きいただけます。 <https://tsunacen.thebase.in/>



継続的に応援するには

正会員又は賛助会員にご入会ください。

・正会員：年間6,000円・総会議決権あり

・賛助会員：年間3,000円・総会議決権なし

寄付のお振込先

<口座名義> 特定非営利活動法人つながりデザインセンター

●郵便振替：02230-8-121908

●郵便振込：ゆうちょ銀行 二二九支店（ニニキュウ） 当座預金 0121908

会員団体のみなさま

一般社団法人入居サポートセンター・みやぎ

SD不動産

NPO法人 仙台傾聴の会

NPO都市住宅とまちづくり研究会

NPO法人東日本ネットワーク手にぎり隊

NPO法人 みやぎ「こうでねいと」

株式会社ミツイ

共立女子大学 高橋研究室

CASEまちづくり研究所

高齢者配食サービス「ほっと亭」

今野不動産株式会社

社会福祉法人ライフの学校

スタジオまめちようだい

仙台白百合女子大学 佐々木研究室

仙台南健康友の会

つばさ薬局長町店

東北工業大学 新井研究室

東北工業大学 谷本研究室

東北学院大学 坂本研究室

長崎大学 安武研究室

宮城厚生協会長町病院

有限会社栗駒建業

役員名簿

代表：薄田 榮一

副代表：新井 信幸

理事：加藤 涉

理事：松原 久

理事：マリ エリザベス

理事：松村 翔子

理事：宮本 愛

監事：金沢 和樹

監事：佐々木 裕子

編集後記

最近、アニメ「母訪ねて三千里」（監督：高畑勲、場面設定：宮崎駿）を家族でいっしょに見ています。9歳のマルコが故郷のジェノバ（イタリア）から、出稼ぎに出た母親に会いに単身でアルゼンチンを放浪する物語です。情景がとても緻密に描かれていて、本当に旅をしている気分になります。マルコと息子がちょうど同じ歳なのも感情移入させられる要因です。意志が強く誠実で情が深い、そんなマルコのように育ってほしい、それが今一番の願いです。（新井）

認定NPO法人

つながりデザインセンター

〒983-0841 仙台市宮城野区原町五丁目5番35号 熊谷ビル205

TEL 080-3205-5177

MAIL asuto@tsuna-cen.com

WEB www.tsuna-cen.com

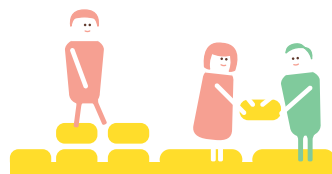


GOOD DESIGN AWARD 2018

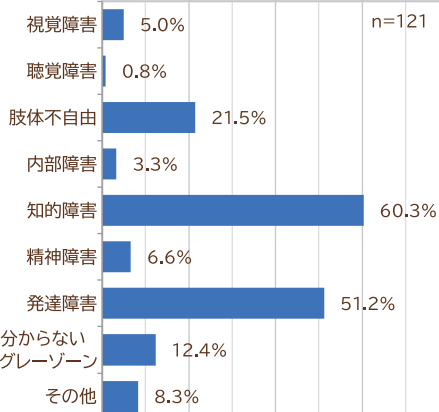
つなセン

TSUNAGARI Design Center

NEWS

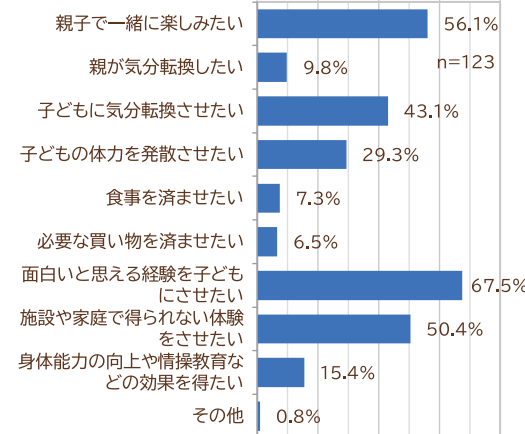


0% 20% 40% 60% 80%



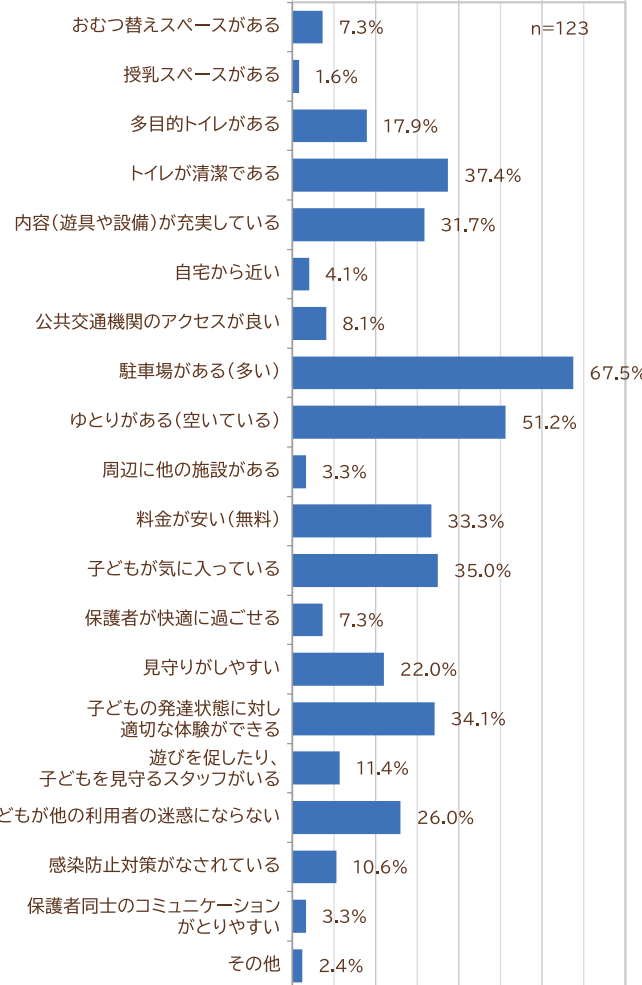
配慮が必要なお子さんの障害種別

0% 20% 40% 60% 80%



休日に期待する体験

0% 20% 40% 60% 80%



外出先で重視すること

インクルーシブな遊び場の創出に向けて
クラウドファンディングのサポートははじめました
公営住宅コミュニティをめぐる意見交換会
【団体紹介】株式会社ECOLA

誰もが遊べる場所を考える

活動報告

Main Topic



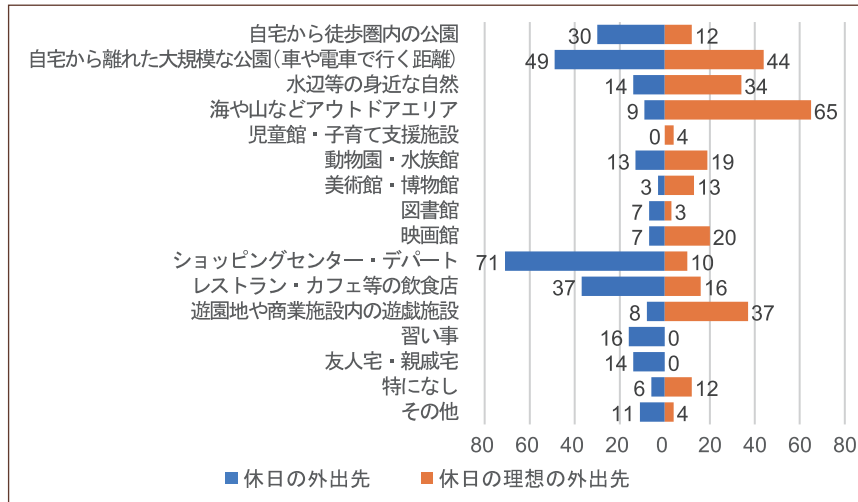
遊び場の創出に向けて

1 親子の外出行動

つなセンでは、仙台市沿岸の荒浜地区に整備予定であった「インクルーシブな多世代交流拠点」の計画にあたって、配慮が必要なお子さんについて、年齢は3歳以下2.5、4-6歳14.3、小学校低学年26.1、高学年19.3、中学生22.7、高校生9.2、その他5.9、障がいの種類(複数回答可)は、視覚5.0、聴覚0.8、肢体不自由21.5、内部3.3、知的60.3、精神6.6、発達51.2、分からない・グレーゾーン12.4、その他8.3でした。

普段の親子の外出行動や外出先でのマイナス体験などを伺っていますが、ここでは調査結果の要点をご報告させていただきます。

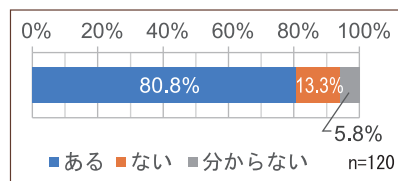
まず回答者の属性の割合(%)をお示しします。居住地は仙台市内86.1、仙台



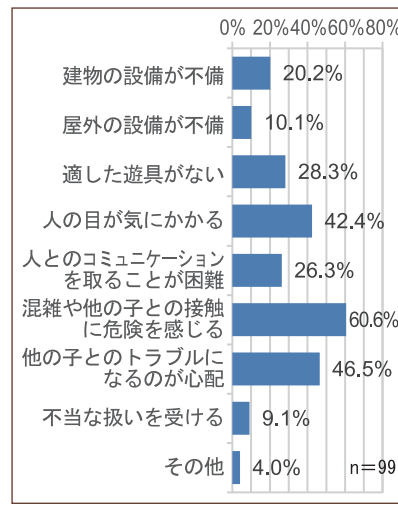
▲休日の外出先(現状と理想)

市以外の宮城県内12.3、県外1.6、年齢は20代以下0.8、30代28.5、40代54.5、50代14.6、60代以上1.6でした。配慮が必要なお子さんについて、年齢は3歳以下2.5、4-6歳14.3、小学校低学年26.1、高学年19.3、中学生22.7、高校生9.2、その他5.9、障がいの種類(複数回答可)は、視覚5.0、聴覚0.8、肢体不自由21.5、内部3.3、知的60.3、精神6.6、発達51.2、分からない・グレーゾーン12.4、その他8.3でした。

普段の外出行動については、休日の外出先(上図)として最も選ばれているのが、ショッピングセンター・デパートでした。車いすでも移動可能で、多目的トイレなどが整っている点等が要因にあげられます。一方、理想の外出先については、海や山、公園や身近な自然などのアウトドアエリアが多く選ばれています。



▲設問:障がい等を理由に遊びにくさや居づらさを感じたことがあるか



▲設問:障がい等を理由に遊びにくさや居づらさを感じた理由

2 多様性への理解がカギ

「障がい等を理由に遊びにくさや居づらさを感じたことがあるか」(左中図)の問いには、80.8%が「ある」と回答しています。その理由(左下図)として、「混雑や他の子との接触に危険を感じる」、「他の子とのトラブルになるのが心配」等が多く選ばれています。自由記入においても、周囲の目が気になるなど、ハード面よりもソフト面の課題が大きい傾向が見られ、保護者の精神的な負担が大きいことが伺えます。また遊具に対しては、「実年齢と精神年齢が離れており遊びたい遊具で遊べない」のように対象年齢の表示が、子どもたちの自由な遊びの妨げになっている実態を示しているなど、多様性と安全性の両立が重要なテーマであると言えます。

本調査の結果については、他にも多くのデータや貴重な意見が収集できているため、今後、報告書の公開や学術論文投稿などを通して、インクルーシブな遊び場の計画におけるハード・ソフトに関わる知見を広く情報発信していきたいと考えています。

理解・ソフト	50件
・周りからの視線が気になる	
・健常児との接触に大人の仲介が必要	
・他の利用者や従業員の理解が足りない	等
遊具	15件
・車いすに乗ったまま遊べる遊具がない	
・障害特性に合わせた遊具が欲しい	
・実年齢と精神年齢が離れており遊びたい遊具で遊べない	等
トイレ	13件
・大人用のおむつ替え台のある多目的トイレが欲しい	等
バリアフリー	13件
・車いすでの移動で、スロープの設置やエレベーターと道幅にゆとりが欲しい	等
騒音・にぎわい	12件
・人混みでパニックを起こしてしまう	
・クールダウンスペースがあると助かる	等
食事	5件
・広い食事スペースが欲しい	

▲自由記入のKJ法整理

●調査対象:配慮が必要なお子さんを育てる保護者
●調査方法:Webアンケート ●調査期間:2022年7月13日～8月31日
●調査主体:認定NPO法人つながりデザインセンター
●協力:東北工業大学建築学部 准教授 錦織真也
東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻 助手 平井百香
東北工業大学建築学部新井信幸研究室

Topics

クラウドファンディングのサポートはじめました

つなセンではこのたび、国内最大級のクラウドファンディングCAMPFIREとキュレーションパートナー契約を締結しました。この取り組みは、クラウドファンディングの起案を考えている方の紹介に加え、プロジェクトの進行をサポートしていくというものです。そこで、ただいまつなセンがサポートを行っている宮城県塩釜市に4月オープンする「ごはん屋はれ」のクラウドファンディングをご紹介します。



「ごはん屋はれ」は、塩釜駅前のリノベーション建築「旧東玉川ハイツ」の一角にオープンする、見た目にも美味しい一汁三菜でバランスよくご飯が食べられ

でバランスよくご飯が食べられるおしゃれな定食屋です。オーナーの佐藤あすかさんは、仙台市荒浜で開催されている「深沼ビーチクリーン」でも料理を提供して、幅広い年齢層から好評を得ていて、料理のクオリティもばっちりです。食事券付きのリターンもありますので、ご興味のある方は、ぜひ応援してください。

●「宮城県塩釜市で心も体も満たされる定食をお届けしたい!」(CAMPFIRE)
https://camp-fire.jp/projects/view/650385?list=search_result_projects_popular
 ●「ごはん屋はれ」Instagram
https://www.instagram.com/gohanya_hare

公営住宅コミュニティをめぐる意見交換会

1月12日、立教大学コミュニティ福祉学部の川村岳人ゼミを交え、あすと長町第二市営住宅集会所にて、公営住宅コミュニティをめぐる意見交換会を開催しました。当日は、川村ゼミの皆さんに加え、仙台南健康友の会、ほっと亭、リッキークルーズなど、普段、集会所利用している団体の方々15名程が集まりました。



最初に、同住宅住民の会代表の薄田さんより、担い手が減っている構造的な問題、震災から11年を経て入居者の入れ替わりなどで変化している課題などの報告があり、学生の皆さんからは、集会所を外部に開いていくこと

団体紹介 No.26

株式会社ECOLA



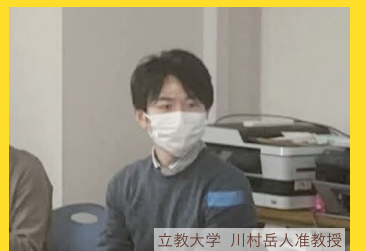
ECOLAは、不動産と建築の融合を基軸として、住宅・オフィス・複合施設など様々なリノベーション事業を展開する総合リノベーションカンパニーです。古いビルを一棟リノベーションして、新しいコンセプトの賃貸住宅やシェアオフィス、レンタルキッチン、コミュニティスペース等を含むシェア型複合施設として蘇らせ、賃貸・運営を手掛けています。仙台周辺でまちづくりに携わる人なら、THE 6、TNER、BLANKなどをご存知かもしれません。ハード面で建物を再生するだけでなく、コミュニティスペースの運営をしながら常に魅力的なコンテンツを発信し続けている点が、一般的なリノベーション事業者と一線を隔すところ。手仕事のワークショップから社会問題まで幅広いテーマを取り上げる「6LABO」や、WEBメディア「RE-NEW」など、人の集まる場や顔の見える関係性づくりに取り組んでいます。

本号topicsで紹介する「ごはん屋はれ」が入居する旧東玉川ハイツ(写真)もECOLAが手掛ける物件です。洗練された、開かれた場づくりに今後も注目です。

【株式会社ECOLA】<https://ecola.co.jp/>

のリスクや、社会的孤立の解消に向けての有効策など、活発な質問がありました。

後半では、川村准教授より、これまで公営住宅を対象に行った研究を踏まえ、自主的(出入り自由)で開かれた(団地内外の人が参加できる)サロン活動が、入居者と周辺住民の交流を生み、個人を基盤とした小さなケアにつながることをお話いただきました。集会所を地域資源として位置づけ、社会的包摂の視点を持って取り組んでいくことの重要性を改めて確認した時間となりました。



立教大学 川村岳人准教授